

令和4年度 自己評価・関係者評価報告書

令和5年5月30日
学) 井上学園 鶏鳴幼稚園

1. 本園の教育方針
 - ・心身の発達の調和を図り、健全な心身の基礎を養う
 - ・豊かな情操、道徳性の芽生えを培う
 - ・自主自立の態度を養う
 - ・様々な表現活動を通して創造性を豊かにする
 - ・家庭と連絡を密にし、地域とも協力して子どもを育てる
2. 教育目標
「よく見る よく聞く よく考える がんばって歩く」
3. 本年度の重点的に取り組む目標・計画
 - ・コロナの感染拡大防止のための制限のある中でも、子どもがのびのびと成長できるように、活動・行事を工夫して行う
 - ・社会情勢、環境の変化に合わせ、衛生面、健康管理、防犯面の対策を見直す
4. 評価項目の達成及び取り組み状況
(A: 十分達成されている B: 達成されている C: 取り組まれているが成果が十分でない D: 取組が不十分)

	評価項目		評価項目の達成 及び 取り組み状況
1	教育課程・指導 状況に合わせた 保育計画、行事 の工夫	A	昨年、学年別に行事を行ったが、子どもは他学年の発表や態度を見て学ぶことが大きいと実感した。今年度は短時間の始業式や終業式は遊戯室を広げて全学年で、運動会は密にならないスペースを確保しながら2学年と1学年の開催とし、毎月の誕生会では組み合わせを変えながら行った。発表会のクラス発表はリハーサルを使い、交代で全クラスの発表を見るようにした。3年ぶりのお弁当持ちの遠足では年長児が下の学年と手をつないでリードした。これらのことは、子どもたちの意欲やめあて年長児への憧れを引き出し、縦の関係を導くものとなった。 保護者から希望の出ていた親睦会も自由参加で開催し、ママさんコーラスや新しくヨガサークルも誕生し、保護者の交流が始まった。
2	安全管理 防犯対策	A	昨年度、近隣に大声で子どもを怒鳴る人やすれ違う保護者に唾を吐く高齢者の報告があった。オートロックシステムは入っているが、今までは保育時間中のみかけて、未就園児教室や課外教室の時は開放していた。預かり保育もあり安全管理を見直し、預かり保育が終了するまで1日を通してロックを掛けることにした。新しいカードシステムを導入して在園児保護者全員にカードを配布し、タッチすると解錠する。小学生の多い課外教室の曜日には、夕方開放した小扉にシバ人材センターの見守りの方を配置した。この事により保護者も教職員も安心して活動できるようになった。
3	衛生管理 マスクと保育活動	A	幼児がマスクを常時着用することのデメリットを共通認識したため、近隣・園内での感染状況を見ながら基本はずして過ごすこととした。クラスに複数の感染者が出たときのみ着用し、家庭内に体調不良の方がいるときは待機していただくことで学級閉鎖を出さずに活動できた。教室は換気に努め、全員前を向いての活動、手洗い・嗽・消毒をまめに行った。 職員も表情の必要な時はフェイスシールドを使ったり、距離を取ってマスクを外して指導にあたり、対話の力を育てる努力を行った。子ども同士の話し合いや対話が増え表情も豊かになってきた。

	評価項目		評価項目の達成 及び 取り組み状況
4	健康管理 熱中症・アレルギー 対策	B	昨年、熱中症が心配な日が多くあったが、毎日の地域集団通園の判断を各集団で保護者が行うのか迷うことがあったため、今年度は雨の降りそうな時と同様に、暑さ指数と予報を見て事前に園で判断して一斉メールで流すことにした。外遊びも基準を決めて部屋に入れ、行事の際は大人の休憩室を必ず作るようにした。混乱なく通園出来るようになり、安全に過ごせた。食物アレルギー対策では園医さんによる園内研修を全員で、私学財団の研修を未受講者が受け個人の対応力を高めた。アレルギー担当により入園時の聞き取りの流れもできた。職員による模擬訓練を行いたかったがそこまでは進められなかった。
	生命の安全教育 について	B	生命の安全教育について、どのようにカリキュム化したらよいかを探るため、専門の資格を持つ看護師さんをお招きして、性教育についての園内研修を行った。多くの教材をご紹介いただき家庭への啓蒙も重要であることを認識した。今年度はプライベートゾーンを教える前に、身体測定や内科検診で肌着を着用することをまず行うこととした。来年度よりプール活動の時期に、年齢に応じて楽しく学ぶよう教材を選び計画したい。

5. 総合的な評価結果

評価	理 由
A	取り組むべき課題について全教職員が日常的に話し合い、内外の状況についての共通理解をもって取り組んだ結果、コロナ対策の制限下であっても可能な活動や計画の工夫により、園児の成長を促す質の高い教育を実践することができた。園児は行事、新しい活動・経験のたびに自信をつけ、達成感に満ちた表情を見せた。

6. 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	健康管理	今年度「性教育」の研修を受けたことを活かし、本園の環境に合わせて生命の安全教育をカリキュム化したい。子どもたちと活動しながら学びや反応を持ち帰り、話し合っていきたい。
2	特別支援教育	乳児期にコロナの制限下での生活があったからか、課題のある園児、協調性が育たない、他者に興味の少ない園児が多くみられる。現在もフリーや補助を配置し、チームで保育にあたっているがこれ以上の過配は難しい。どのような組織と指導の工夫ができるか、発達支援センターの協力を得て考えていきたい。
3	少子化対策	来年度、この20年で初めてクラスが減ることになった。子育てを楽しく無理なくできるような預かり保育や相談事業の充実を図り、保護者の期待する幼稚園像を探りたい。

7. 学校関係者の評価

皆様より自己評価は妥当であるとの評価をいただいた。以下は、記述いただいたもの。

[保護者役員から]

- ・コロナ禍で活動が制限されている中、少しでも多くの経験ができるよう様々な工夫をしてくれて良かった。
- ・今年度は花火大会が2学年と1学年に分けることで復活したが、天候の判断をぎりぎりまで待って開催し、とても感動した。
- ・運動会の年中組と年長組を一緒に行ったのはとてもよかった。来年は全学年で行いたい。
- ・運動会の全学年開催と年少組だけ短時間で行うのとどちらもあり迷う。
- ・運動会、発表会、作品展の子どもたちの成長、達成感に満足している。工夫して互いを見学し合っていたことが、家庭での話でわかった。
- ・マスクを強要することなく必要に応じた対応をとってくれたおかげで、子どもたちは笑顔で伸び伸びと過ごせていた。
- ・初めての幼稚園で不安だったが、アプリで行事や保育の様子が写真や動画で見ることができ安心した。保育参観やお泊まり会も是非やってほしい。
- ・子どもが笑顔で幼稚園に通い、行事を楽しんでいて満足している。
- ・環境が変わることが心配だったが、本人のペースで無理なく手伝ってもらえよかった。
- ・先生方のチームワークがよい。いつも笑顔で楽しそうに活動していて親として安心でき信頼できる。
- ・集団登降園では同じ地域の友だちと仲良くなれたり、全学年の関わりも持て、体力もつくのでとてもよかった。朝の号の有無について、もう少し早く知りたい。
- ・園全体で子どものことをよく考えて愛情を持って関わり、保護者にも声をかけてくれて安心して預けることができた。
- ・家庭では気づけない子どもの意外な一面や小さなことも教えてくれ、たくさんほめることで子どもの自己肯定感が高くなり、自信を持つことができた。

[評議員から]

- ・園は保護者の声に耳を傾け、可能な物を取り入れようとしていることがわかった。園外から見ても子どもの意欲と躍動感が伝わってくる。
- ・マスクの取り扱いには賛成である。
- ・複数学年開催の段階を踏んだのはよかった。園庭も遊戯室も十分に広いので、次年度は全学年開催へつなげていってはどうか。
- ・防犯対策では近所の小学生もシルバーさんに守られていてありがたい。
- ・熱中症やアレルギー、生命の安全教育など、幼児を取り巻く環境の変化に驚いている。
- ・入園児の減少が心配である。ホームページも手を入れて鶏鳴の良さをもっとPRすると良い。
- ・今後の取り組みにも期待したい。